

## リハビリ・リレー通信事業について —ネットワーク形成の取り組み—

仙台保健福祉事務所地域保健福祉部健康づくり支援班 技師 小原 陽子

**Key words:** 情報把握, ネットワーク形成, 多職種連携

### I はじめに

仙台保健福祉事務所管内（以下「仙台保福管内」という。）におけるリハビリ提供状況は、リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）数及びリハビリ提供施設（リハビリ専門職が勤務している施設。以下「施設」という。）数が、他圏域より多いことが特徴である。その理由として、仙台市に近く、地理的に好条件であるため働きやすい、運動器に特化したデイサービスが多い等が考えられ、当所では、多様化するリハビリ提供内容を把握することは困難であった。そのような状況から、施設においても互いのリハビリ提供内容が知られておらず、施設間のネットワークは十分とは言い難い状況であった。

このため、仙台保福管内市町村からは、各施設の特徴が分からないとの声があり、また、県民から施設に係る具体的なリハビリ提供内容を照会されても既存の公開情報ではニーズに十分応えることができなかった。

そこで、施設の情報誌作成を通して、仙台保福管内の施設間のネットワーク形成とリハビリ専門職と関係する職種（保健師、ケアマネージャー等）及び県民への情報提供を図ることを目的に、平成24年度より本事業を開始した。

### II 活動内容

- (1) 対象施設：平成24年3月31日現在、当所でリハビリ専門職の在籍を確認している施設（仙台保福管内83施設）
- (2) 方法：塩釜・岩沼・黒川の3地区で実施し、毎月地区ごとに1施設を作成する。また、掲載内容は、施設自身で作成し、施設間をバトンリレー方式で繋ぐもの。
- (3) 内容：リハビリ提供状況として、施設やスタッフの写真、施設の特徴、リハビリ専門職員数及びリハビリに関する連絡先を明記した。また、施設の仕事へ向かう心構えや考え方がわかるように、日々の業務で感じたことをテーマとしたコラムや質問コーナーをつくり、他の施設にも参考になるよう工夫をした。
- (4) 情報提供：当所ホームページ上で情報を提供している。また、リハビリ専門職と関係する職種においては、当所主催の介護保険の事業者集団指導や研修会等、仙台保福管内市町村担当課へは電子メールで情報提供を行っている。

### III 考察

本事業では、平成27年1月末までに、仙台保福管内87施設中66施設の情報誌を作成し、情報提供を行った。施設の特徴や具体的なリハビリ提供内容を把握した。また、この事業により新たに13施設を把握することができ、県民に対しても情報提供できるようになった。また、連絡調整を通して施設と、情報提供を通して仙台保福管内市町村との関係性を強化することができた。

本事業では、施設より「繋ぎ先に連絡することで連携のきっかけになった」、「質問に対する回答が業務に活用できた」、「コラムが普段の業務の参考になった」、「コラムを作成することで普段の業務の振り返りができた」という声があった。また、関係職種からは「施設の特徴がよくわかった」、「病院や介護老人保健施設以外にもリハビリ専門職がいることがわかった」「住民の転出の際に情報誌を活用した」という反響があり、このことから、本事業は、施設や関係職種の業務に役立てられていると思われる。リハビリ・リレー通信の閲覧件数も毎年増えてきていることから、本事業が認知されてきているものと思われた。

黒川地区においては、ほぼ全ての施設で情報誌が作成でき、仙台保福管内の施設間のネットワークは徐々に形成されつつある。今後、本事業で繋がった施設同士の連携意識の醸成と、多職種との連携を目的に事業展開をしていく必要がある。そのために、まずはリハビリ専門職間での顔の見えるネットワーク形成が不可欠であると考え。今年度、黒川地区では、バトンリレーが一旦終了したことから、施設のリハビリ専門職員を顔の見える関係に発展させるため、情報交換会及び研修会を企画した。各施設と協同で要望・関心事を集約し、テーマを地域包括ケアとした。3月11日に開催することになっている。

さらに、これまでに集約した情報を活用しやすいように、リハビリ提供内容毎の検索システムや施設の位置情報も含めたマッピング等が必要だと思われる。

### IV 結論

今後も、情報誌の作成と情報提供を継続するとともに、仙台保福管内市町村及び関係機関と協働で、多職種連携が促進されるよう今後どのように事業を展開するのか検討を行っていく。